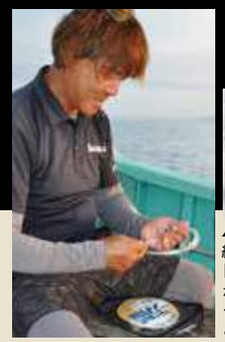
## 大物釣り専用ハリス
# シーガープレミアム万鮪
### 30m巻きに統一、24号も追加発売

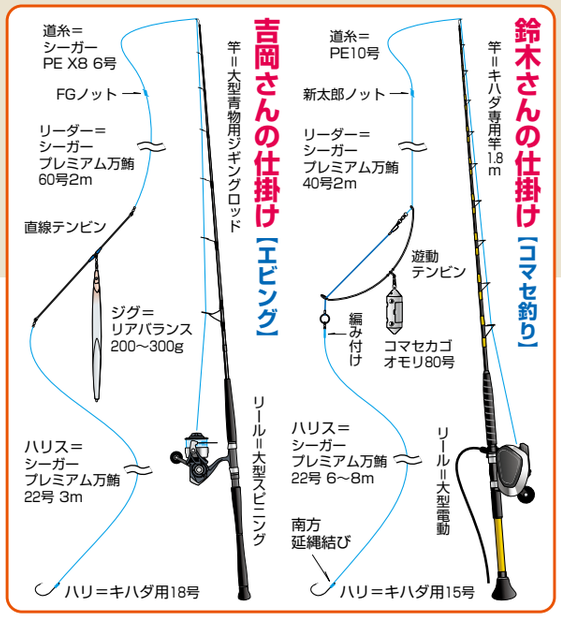
★大物釣り師に絶対の信頼を得ている専用フロロカーボンハリス「シーガー万鮪」、これに引っ張り強度を約20パーセントアップしたのが「シーガープレミアム万鮪」である。シーガー万鮪は30〜150号のラインナップ、プレミアムは16〜80号までとなり、相模湾のカツオ、キハダには最適のラインナップ。このほどパッケージデザインも一新。またシーガー万鮪を含め、号数にかかわらずすべての製品が30メートル巻きとなり、新しく24号も加わっていっそう使用範囲も広がった。



▲ハリは南方延縄結びで
▶ハリスはしっかりと編み込む
◀船上でサクッと仕掛けを作製

| 号 柄 | 16 | 18 | 20 | 22 | 24 | 26 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 標準直径(mm) | 0.660 | 0.700 | 0.740 | 0.780 | 0.810 | 0.840 |
| 30m巻価格(円) | 2,400 | 2,700 | 3,000 | 3,300 | 3,600 | 4,000 |
| 号 柄 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 |
| 標準直径(mm) | 0.910 | 1.050 | 1.170 | 1.280 | 1.380 | 1.480 |
| 30m巻価格(円) | 5,500 | 6,000 | 6,500 | 7,000 | 7,500 | 8,000 |

※表示価格はすべてメーカー希望小売価格（税抜き）



▲吉岡進さんと大山雅幸さんはエビングでチャレンジ
◀吉岡さんはキャスティングを封印し、エビング初挑戦

8時前、20隻以上集まるキハダ船団に合流。タナ35〜40メートルで釣り開始となる。数日前には久しぶりの好況に沸いたキハダ狙いであったが、この日はどの船も食わせた証しである回転灯が回る気配はない。

船長はソナーを見ながらこまめに移動。時おりはいい群れが映っていると気合を入れてくれるものの、エビングにもコマセにもアタリはこない。

周囲の船も同様で、それは12時過ぎの納竿時間まで続いてしまう。どうやらこの日は最悪の食い渋りとなってしまったようだ。

「キハダはいたようですが、これればかりは仕方ありません。私も1度の釣行で釣れるとは思っていません。しばらくは通い続けるしかないですね」と鈴木さん。

ほかのメンバーも納得の表情で釣り場をあとにした。

★相模湾に集結したキハダ船団

## Challenge #67
## 三浦半島長井新宿港出船のキハダ

### シーガースタッフの太鼓判
# キハダ攻略の必勝ウエポン「シーガープレミアム万鮪」

★キハダ開幕、となれば「万鮪」の出番

★当日はキハダの群れが何度も船下を通過するが、なかなか口を使わず

★キハダ攻略の決め手は信頼のハリス選び

## 釣れる釣れないは糸次第

◉相模湾コマセキハダが解禁となって1カ月。例によって序盤は苦戦を強いられたものの、徐々に上昇気配。20〜30キロ級を中心にポツポツと釣れ始めている。ころはよしと、シーガーフィールドスタッフが勢ぞろいし、一発大物を夢見て相模湾へと繰り出したが……。

▶鈴木さんのコマセ釣りタックル
◀中村さんの仕掛けもシーガープレミアム万鮪22号を使用
◀大物釣り師、中村透さんもこまめにコマセを振るものの……

すでに恒例ともなったシーガーフィールドスタッフによる相模湾のキハダ釣行会、今年は釣行日を8月下旬にずらし（例年は解禁当初）、満を持してこの日を迎えた。

乗船したのは三浦半島長井新宿港の孝漁丸、スタッフ7人の仕立船である。鈴木新太郎、中村透、粕川晃、今井寿美礼、女良圭佑の5人がコマセ、吉岡進、大山雅幸の2人がエビングという布陣。いずれもシーガーが誇る最強の船釣りメンバーだ。

5時半に出船し、ベタナギの海上を西沖の釣り場に向かう。

鈴木新太郎さんは長い航程を利用して、さっそくキハダ狙いのキモとなる仕掛け作り。使用するハリスは「シーガープレミアム万鮪（マンゴウ）」である。

「キハダといえば、これしかないでしょ。なんといっても安心感ですよ」

大物釣り専用ハリスとして全国のファンに認知されている「シーガー万鮪」に、引っ張り強度を約20パーセントアップしたのがこの製品である。

対象魚のサイズを考慮し、鈴木さんは22号を選び、サクサクッとハリに結んで仕掛け完成。ほかのメンバーもほとんどがプレミアム万鮪の22号で仕上げてある。

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎0282・82・6133